

平成 30 年 3 月 22 日 新潟県立植物園 久原

## 平成 29 年度佐潟周辺における植生調査等について

## 1. 佐潟周辺における希少植物の調査

## (1) 希少種の生育状況

## ①保全対象群落の確認

- a. サデクサ：ミゾソバが優先している状況であったが、生育が確認できた。
- b. ヤナギトラノオ：昨年度、外来種のシンワスレナグサによる被圧が確認されていたが、今年度は大きな被害は確認されなかったため、駆除は行わなかった。
- c. シラスゲ：道路沿いの植物が削られて減少していたが、林内に確認されたため、大きな減少は起こっていない。

## ②その他の希少種の生育状況

- a. オニバス：春季の調査ではヨシ刈り地周辺で 5 個体確認されたが、夏季や秋季の調査では確認できなかった。
- b. ミズアオイ：潟内での群落は確認できなかったが、水田の復元地や水門近くの水路で確認された（水路にはマツモも生育）。
- c. スジヌマハリイ：これまで記録のあるヨシ刈り地や自然生態観察園では確認できなかった。
- d. ハンゲショウ：これまでと同様に生育が確認された。

## 2. 「ど」の復元により出現した希少種の保全

「ど」の復元により出現したミズアオイやスジヌマハリイは、平成 26 年度以降確認できていない。ヨシの急速な回復による光環境の悪化や上記の植物が繁殖できる攪乱の起きやすい浅い湿地がないためと考えられ、今後は新設したエコトーン（後述）などを有効に活用し、環境の改変等により出現する希少種を保全できるよう対応したい。

## 3. その他の植生について

## (1) 帰化植物による被害状況

- ①セイタカアワダチソウ：潟周辺については、草丈が低くなり多少衰退傾向にある群落も見られるが、潟内については依然生育が見られる。ヨシ刈り地については、ヨシが勢力を取り戻し、被圧面積は減少している。
- ②アレチウリ：御手洗潟に唯一残っていた群落は、今年度は確認されなかった。

## (2) ハスの衰退について

今年度、佐潟内でハスが全く見られない状況が確認された。ハスの衰退は、琵琶湖（2016 年）を始め、各所で起きている。

その原因として、群落の発展と衰退という、植生の変遷で起こる正常な現象である可能性の他、生育に適した粘土層の消失やミシシippアカミミガメ等による被害、水質悪化による影響などの関わりも否定できない。

浚渫土からは、多くの埋土種子やそれらの種子からの発芽も確認しているため、長期的にはそれほど心配ないと思われるが、隣接する御手洗潟などとの比較等を行い、原因の解明を行っている。

きたい。

#### 4. 今後の活動について

##### (1) 潟普請との連携

佐潟の植生の復元や維持には、里潟を保全する上で潟普請活動が大変重要だと思われる。その他、自然観察や漁業利用、レンコンその他の収穫など、里潟保全につながる活動がさらに普及していくような工夫が必要だと考えられる。

##### (2) 水田の活用

一昨年前に復元された水田は、かつて積極的に行われた里潟利用の象徴である。コメの収穫だけでなく、水田という特殊環境を利用する生物とその生態系の重要性を認識し、普及啓発等にも役立てられる。

##### (3) 環境全体との関連性

植生の変化は他生物や環境との関連が大きいので、鳥や昆虫、魚類等の専門家や関連する方々との連携を深め、総合的に里潟保全を行う必要がある。